

2010年に向かって経営の舞台が変わります



ハルナグループ創業者
ハルナグループCEO
ハルナビバレッジ株式会社 代表取締役会長
青木 清志

1996年、ハルナビバレッジの創業から今日までを、経営史の観点からみるとなんと市場環境に強い影響を受けてきた歴史であったかと思えます。この間の飲料市場成長率は平均3%台でしたが、製造の中核を占めてきたペット飲料の市場容器率は強い伸張を続けて、今日のペットボトル飲料の“多品種、多機能、多様化”の波をつくりだしてきました。しかし、新しい市場を顕在化してきた過程で、消費者に様々な飲料の選択を示す可能性を生みだしてこられたことは、極めて特筆すべき事であったかと思えます。

他方、製品、サービスの供給現場では幾つもの新しい課題が生まれており、市場の変化に対応する生産工程での非効率性の著しさは時間軸でみると、大いなる資源の“ムダ”をつくりだしております。現況は原料、燃料、資材、包材の非合理性が突きつけられている現場に変貌しております。さらに、現時点での主要な課題は“環境負荷とコスト”の低減化を“持続可能な方法”で限りなく確実なものにすることです。どのような政策と選択が可能か、企業活動の命題として極めて重要な意思決定の時間が目前にきております。“市場の将来変貌と製造の現場”は常に連動され、相互関係性の活動として捉えていく必要があります。現在、対策の一つとして燃料を重油から、天然ガスにエネルギー転換を図ることで、コスト&CO₂低減の計画を実現しようとしています。この政策は今後の重要課題として益々注目していきたいと考えています。

...

創業時の投資政策の“ペット飲料製品の設備に特化”した事業戦略が今日実現できた背景と主たる理由は“市場の変化”そのものが最大の要因であったかと思えますが、最初の5年間に設備投資を集中する戦略が重要な決定であったかと思えます。ペット飲料市場の成長はこの間で200%を超える経済規模となっております。企業の存続は“市場の変化”を注意深く読み取るだけでは不十分で、“社会の変化”の兆しから何を導き出し、どのような行動をしていくか、企業と社会の複雑な相互関係性を明確に捉える姿にCSR活動の原点があるかと思えます。企業が社会的存在でありつづけるには活動のプロセスに社会性や環境性への配慮をバランスして企業の責任を果たしていく必要があります。創業時に目指した、“顧客思考を経営の核とする”理念は今日のグループ企業の骨格を成し、政策基準になってきております。

2010年、ハルナグループは新しい舞台に立ちます。“公開企業”として歩み出していきます。これまで、ステークホルダーの方々と様々な局面で利害をともにして頂き企業活動をしてきましたが、今日の経営水準と経営品質を考えるに“公開市場”の舞台は、より高く、より厳しい社会の視線を受けとめられる企業として、組織能力を備えておかななくてはなりません。経済的活動責任を果たしたうえで、社会への配慮を高い位置に据え、内部と外部、いずれの課題をも効果的な業務の推進と成りうる仕組みが重要で、短、中、長期に関わらず自社の企業価値向上につながる活動になるべきと考えます。昨今、“CSR”の認識には明らかにパラダイム・シフトが起きていると思われまます。企業の中核的課題として“将来の利益を生み出す投資”との認識を持つ企業が増加しております。企業の社会的責任範囲も環境、社会貢献、人権、リスクマネジメントに至る広範囲な社会的活動になっており自社の事業を通じて“払うべきコスト”は“利益を生み出す投資”に転換している現状といえます。

．．

2007年から、ハルナグループは連結経営へ移行しております。“ハルナ理念・ビジョン”の基で、政策と資本を一体とする“戦略的アライアンス”を目指しています。“集中管理から分散と統合のマネジメント”への転換を図り、“自立と自律”を重んじるグループとして、社会に欠かせない存在になっていきたいものと希望しています。これまで、人材育成を優先課題としてきた歴史がありますが、今年、4周年を迎える“ハルナ・ビジネススクール”での教育実習は、これからの企業成長の要として大きな役割をはたして行くものと確信しています。

．．

2002年、“ハルナ理念・ビジョン”の浸透政策として、最初の実行は“四半期報告会”の開催でした。次は2003年度から“環境会計報告”を開始しました。この報告書を四半期報告に加えることができ、一段と活動の公開性が高められる体制になってきたと思っています。なかでも一番喜ばしい出来事は、一人ひとりの業務の責任の在りに気づき、そこから学び、自分の仕事への理解を一段と深める機会となってきたことです。

．．

2010年、グループが入場しようとしている“新しい舞台”の時間まで今日、グループが最も情熱を注いでいるのは、次世代を創る経営層です。“考える集団”層の誕生に期待を描ける意味こそ、“新しい舞台”の夢です。独自性ある“CSR”活動で社会の変革に貢献できる運動になればと、ハルナグループは願っています。

経営基本方針

ハルナグループは
以下の経営方針のもと
企業価値の持続的発展を
目指してまいります。



ハルナビバレッジ株式会社
代表取締役社長
小出 信介

- ハルナグループは、ペットボトルに強みを持つ飲料受託の企画・開発、製造、販売、物流のバリューチェーン全体での機能充実を図り、品質を第一に安全・安心に努め、顧客の信頼と満足を高めることを目指します。
- ハルナグループは、人と生態系との共存をテーマに、安全で美味しく、地球環境にやさしい飲料製品づくりを目指します。
- ハルナグループは、グループ各社のシナジーによる連結創造経営へと移行し、グループ全体によるコーポレートブランド価値の最大化を目指します。
- ハルナグループは、企業の透明性向上とコーポレートガバナンスの強化に努め、全てのステークホルダーの皆様から信頼される企業価値を創造することを目指します。
- ハルナグループは、持続的な成長発展と社会への積極的貢献を共に推進し、全てのステークホルダーの皆様から支持される企業価値を創造することを目指します。

コーポレートガバナンス基本方針

■ハルナグループの経営執行業務組織

ハルナグループは、すべてのステークホルダーの皆様から、「価値ある企業」として支持され続けることが、コーポレートブランド「ハルナグループ」の価値向上につながるとの認識のもと、コーポレートガバナンスの強化および経営の透明性の向上に、積極的に取り組んでおります。グループ全体として、グループ政策委員会、グループ監査委員会およびグループアドバイザリー委員会を設置し、グループ全体のガバナンスの強化と相乗効果の創出を図ってまいります。また、執行体制として、監督機関である取締役会と執行機関である執行会を設置し、監督と執行の分離を図り、業務執行の迅速性と経営判断の慎重性の両立を図ってまいります。

